

文芸

俳句

秋彼岸月日になれし独りかな 池田 逸子
 三枚の野良着着回す残暑かな 伊藤 敬子
 林檎ジャム甘さ控え目母好み 今関満喜子
 芋掘りや隣の畑数多し 魚地 照子
 二人居てひとりひとり夜の夜長かな 江森 悦子
 野心失せ晩成もなく枯蝻螂 川島 通則
 誰そ彼に色無き風の吹きにけり 向後 寛
 四世代囲む食卓秋の幸 越川せつ子
 初茸に子等と探りし山の中 越川 福子
 亡き友の笑顔の遺影灯す秋 小松 藤男
 グランドの一樹の影や星あかり 佐瀬 輝夫
 土に座せばことさらやさし秋の風 椎名万里子
 ふるさとの径をゆるりと秋の風 鈴木とし子
 ぼんぼんと言える仲間や温め酒 鈴木 利子

色鳥の写るふ沼の鎮まれり 玉虫 栗扇
 煙立つ野辺を悠々秋の風 土屋美枝子
 読みさしの本を開かず虫の夜 土屋 義昭
 色鳥や梢に交はす声愛し 戸村 静華
 庭に立ち髪一本までも秋の風 西崎さち子
 雨の中鶏頭色を深めたる 早川 勇
 一番が好きなき農家の櫓かな 藤田 雅夫

短歌

目が覚めて指に数へて短歌をよむ この幸せをかみしめをりぬ 吉岡 信子
 ひょうたんが櫃に絡みて吊り下がり 吹きくる風と遊ぶがに見ゆ 平山 芳子
 羽を閉じ葉蔭に止まりし紋黄蝶 かくれんぼなら見つからないよ 八角 三枝
 蒔きしより手塩にかけて二月余 紅鮮やかな鶏頭を植う 青木 秀子

しなやかに腕動かしてバランスを とりつつ幼の一輪車ゆく 押尾 輝子
 マーラーのシンフォニー八番聴くを得し 神への賛美満ちあふれたり 田崎 尚美
 いづこより種飛び来しか一本の 日日草の庭隈に咲く 芹川 初子
 咲き盛るコスモス畑に夕日さし 母子の姿見へ隠れする 鈴木まさ子
 子等を乗せ遊びし思い出返り来る スワンボートが岸に繋がる 西山満里子
 私今何才になったと聞く妻に 九十六よにびつくりの妻 鈴木 益郎
 真丸き大き夕焼おろがみて 老いの二人のすこやかなれと 高梨 キヨ
 あかときの空に棚引く茜雲 いつしか消えて今日の始まる 土屋 好
 耳かざりつけしことなき耳朶に ほのほの温し孫のささやき 越川 義則

髪撫でる様に感じる秋風に 過ごしやすさに夜もぐつつすり 内藤 くに
 話下手真面目が取り得て今があり 友に恵まれ生きる喜び 伊藤 定男

こうほう博物館 56

町内の地名が 付いた土器

日本の各地からは、様々な形や文様の縄文土器が出土します。縄文時代は約一万年続いたと言われ、その時の流れの中で、形や文様に変化し、また地域によって異なる土器がつけられました。その多種多様な土器を、時期や分布地域がわかるように分類し、名前が付けられました。それは土器型式名と呼ばれ、最初に出土した遺跡の名前から付けられました。県内で最も有名な縄文遺跡、加曾利貝塚は加曾利E式、加曾利B式と名付けられました。前者は中期後半の関東地方に分布する土器、後者は後期後半の関東地方に分布する土器として知られています。

ところで、町内で有名な遺跡姥山貝塚は県内の太平洋側で最大の貝塚として古くから知られ、昭和31年から慶応義塾大学によってたびたび調査されてきました。

それにより姥山貝塚は縄文時代中期から晩期にかけての遺跡であることがわかり、その時期の全容がほぼ明らかになりました。その発掘で出土した土器の中に、遺跡の名前から付けられた、山武姥山式という型式名があります。山武が頭にあるのは、姥山貝塚が市川市にもあるため、区別するために付けられました。その後、山武姥山式土器は関東各地で発見され、縄文晩期の一時期を画する土器として、位置づけられました。

